

JHFREPORT



第9回JHFハンググライダー・パラグライダーフォトコンテスト 応募作品 撮影：中村浩希

2023年度定時総会を開催しました

6月13日（火）、TKP銀座ビジネスセンター5Aにおいて、正会員（都道府県連盟）18名の出席、バーチャル参加11名、議決権行使18名（うちバーチャル参加5名）、合わせて全国47都道府県連盟の参加を得て、2023年度JHF定時（通常）総会を開催しました。

議題は以下のとおりです。

報告事項1 2022年度事業報告

報告事項2 2022年度決算報告・監査報告

決議事項1 貸借対照表及び損益計算書（正味財産増減計算書）の承認（賛成47、反対0、棄権0で承認された）

報告事項3 2023年度事業計画

報告事項4 2023年度収支予算

決議事項2 JHF会員会費規約の改正について

（賛成47、反対0、棄権0で承認された：2024年1月1日より1年会費のみとする）

決議事項3 JHF役員選任について（役員立候補者全員が必要票数を獲得し、理事6名、監事1名が選任された：6ページから新役員の抱負を掲載）

総会議事録は、確定後、JHFウェブサイト「情報公開について」のページに掲載しますのでご覧ください。

スポーツくじ



JHFレポートはスポーツ振興くじ助成金を受けて発行しています

JHFフライヤー宣言

1. 自分の意志と責任でフライトします。
2. 自己の健康管理を行い、健全なフライトをします。
3. 社会のルールを守り、第三者に迷惑をかけません。
4. 自然を大切にします。

JHFの2022年度事業

「公益社団法人日本ハング・パラグライディング連盟2022年度事業報告」より

I 概要

2022年度は新型コロナウイルス感染症の流行も収まりつつあり、ハンググライダーもパラグライダーも日本選手権等の競技を開催することができました。JHF総会、理事会、委員会についてはリモート参加も利用したハイブリッド型の会議が一般化しましたが、リアル参加者の増加により会議はより活発になりました。

残念ながら重大事故が発生しましたが、パラグライディング、ハンググライディング教本の改訂版発行、安全セミナーの開催等で一層安全に対する啓蒙活動を進めていきます。

1. 収支の現状

2022年度は、会員数が3.7%減少したことにより会費収入が約250万円減収しました。競技会開催や委員会活動は新型コロナ感染症拡大前の状況に戻りつつありますが、未消化の事業がありました。システム見直し、効率化による固定費削減等を引き続き検討し、堅実な運営を進めます。

2. 組織運営等

- 1) 教員検定員研修検定会を3月2日～3日に開催、23名が参加
- 2) 教員検定員による教員助教員更新講習会を12カ所で開催、68名が受講
- 3) レスキューパラシュートリパック更新講習会を12カ所で開催、59名が受講
- 4) 教員技能証学科検定については集合研修検定を2月19日～20日に開催、8名受検
- 5) 上級タンデム検定会を開催、12カ所 149名受検
- 6) 第9回JHFフォトコンテストを開催
- 7) 創設40周年記念イベント「フライーイン紀の川」を開催

【特記事項】

- 1) 第44回鳥人間コンテスト選手権大会を協賛
7月23日（土）～24日（日） 滋賀県彦根市松原水泳場周辺
- 2) 一般財団法人日本航空協会の航空スポーツ教室「スカイ・キッズ・プログラム」の第48回 11月23日 長野県

ハング・パラグライディング連盟が協力

3) 後援体験会

○4月16日～17日 日本学生フライヤー連盟関東支部 ハンググライダー、パラグライダー体験会

○5月21日 ふくしまスカイパーク ハンググライダーVR体験

○10月29日～30日 栃木県みかも山公園 パラグライディング地上体験会

○11月5日 熱海市姫の沢公園 スポーツフェスティバル パラグライダー体験会

○11月20日 スカイフェスタ2022 in 筑後大堰 パラグライダー体験会

4) 第27回スカイスportsシンポジウムを協賛

12月3日（土） オンライン開催

II 事項別状況

1. 組織

1) 会員数

正会員47 フライヤー会員6,242名(2023年3月末有効登録数) 賛助会員12

2) 役員構成 (2023年3月末現在)
理事8名 (内会長1名、副会長2名)
監事2名

2. 会議等の開催

1) 総会

2022年6月通常総会

開催通知: 2022年4月6日（水）

開催日: 2022年6月14日（木）13:00～16:00

開催場所: TKP九段下神保町ビジネスセンター 3A（東京都千代田区神田神保町）

議案:

報告事項1: 2021年度事業報告について 報告事項2: 2021年度決算報告について 決議事項1: 貸借対照表及び損益計算書の承認について 報告事項3: 2022年度事業計画について 報告事項4: 2022年度収支予算について 決議事項2: JHF役員選任規約一部改正について

2) 理事会 () 内は出席者数

○第1回 5月13日 (理事7、監事2 内リモート4)

○第2回 9月5日 (理事8、監事2

内リモート3)

○第3回 12月9日 (理事8、監事1 内リモート0)

○第4回 3月8日 (理事8、監事1 内リモート1)

○文書理事会 4月6日、5月19日、6月1日、7月4日、8月24日、9月12日、10月3日・27日、10月28日、11月30日、12月12日・26日・27日、2月6日・24日、3月27日

3) 委員会

■ハンググライディング競技委員会

10月8日、2月15日、他 競技会開催時に実施

■パラグライディング競技委員会

5月30日、他 競技会開催時に実施

■補助動力委員会

5月24日、6月28日、7月20日、8月22日、9月21日、10月16日、1月17日、3月14日

■教員・スクール事業委員会

4月11日、12月26日、1月11日

■安全性委員会

8月31日、10月27日、12月14日

■制度委員会

6月7日

■ハングパラ振興委員会

5月18日、10月26日、1月25日

■役員選任実行委員会

2月8日、3月9日

■委員長理事合同会議

2月21日

各委員会はリモート会議を中心に、SNSや電子メール会議を実施し、経費削減に努めた。

3. 事業の実施状況

1) 普及振興活動

○JHFレポートを発行（4月、7月、11月、1月）＊独立行政法人日本スポーツ振興センター・スポーツ振興くじ助成を受けて発行しています。

○都道府県連盟事業費の交付

○日本学生フライヤー連盟へ助成金交付

2) フライヤー会員登録

2022年度新規・更新登録数4,692名 (2021年度4,873名)

3) 技能証発行 () 内は2021年度ハンググライダー105枚 (117枚)

パラグライダー715枚（798枚）
 モーターパラグライダー3枚（9枚）
 レスキューリパック認定証52枚＊新規10・更新42
 4）競技会の主催・公認・後援
 ハンググライディング12件（内FAIカテゴリー1・2：8件）
 パラグライディング22件（内FAIカテゴリー1・2：2件）
 ハンググライディング・パラグライディング同時開催1件
 5）競技会の開催
■ハンググライディング
 ○日本選手権 1月8日～10日 静岡県富士宮市朝霧エリア 参加48名 日本選手権者：田中元気 女子日本選手権者：不成立
 ○クラスV日本選手権 4月7日～10日 茨城県石岡市足尾山エリア 参加15名 日本選手権者：古坂学俊
 ○ハンググライディングシリーズ（参加人数75名） 1位：小梶溪太 女子1位：野尻知里
 ○ハンググライディングフライトコンテスト［ストレートディスタンス］クラスV-1位：山本剛（195.7km）クラ

スI-1位：石坂繁人（179.9km）
 [アウトアンドリターン] クラスV-1位：松田隆至（113.6km） クラスI-1位：大山真哉（54.0km） [トライアングル] クラスV-1位：山本剛（140.5km） クラスI-1位：鈴木博司（86.9km） [デュレーション] 1位：児玉智雄（11:02）
■パラグライディング
 ○日本選手権 9月16日～19日 茨城県石岡市足尾山エリア 参加75名 日本選手権者：小梶溪太 女子日本選手権者：平木啓子
 ○アキュラシー日本選手権 12月3日～4日 静岡県富士宮市猪之頭エリア 参加36名 日本選手権者：平野竜二 女子日本選手権者：山口香代
 ○ジャパンリーグ（参加人数137名、成立大会7） [オープンクラス] 1位：小梶溪太 女子1位：平木啓子 [スポーツクラス] 1位：氏田敏彦
 ○ジャパン2リーグ（参加人数115名、成立大会2） [総合] 1位：石黒信一郎 女子1位：鈴木彩 [チーム] 1位：ソラ&ドロシー
 ○クロスカントリーリーグ（59名

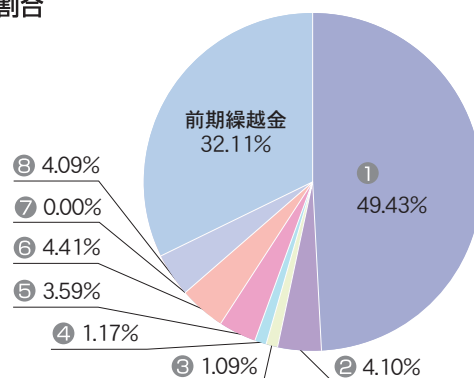
1126本） 1位：多賀純一（461.4km）
 最長フライト：小林大晃（150.7km）
 ○アキュラシージャパンリーグ（参加人数74名、成立大会5） [スクラッチクラス] 1位：和田浩二 女子1位：橋本みさ紀 [ハンディキャップクラス] 1位：和田浩二 [学生クラス] 1位：内野僚太 [チーム] 1位：びよびよ
 6）スクール・エリア情報の収集及び公開
 ○スクールサイト登録校45件
 ○エリア情報掲載181件
 7）海外関係団体活動
 ○CIVL総会 2023年3月2日～6日 ボルトガル＋リモート（ZOOMミーティング） 出席者：岡芳樹（デレゲイト）、牟田園明（オルタネート、リモート）
 8）世界選手権等へのチーム派遣
 ○第4回FAIパラグライディングアキュラシーアジア選手権 参加選手：7名 6月21日～29日 カザフスタン
 9）その他
 ○機体型式登録 0件（PG/HG）
 ○機体情報登録 0件（PG/HG）

2022年度決算報告より

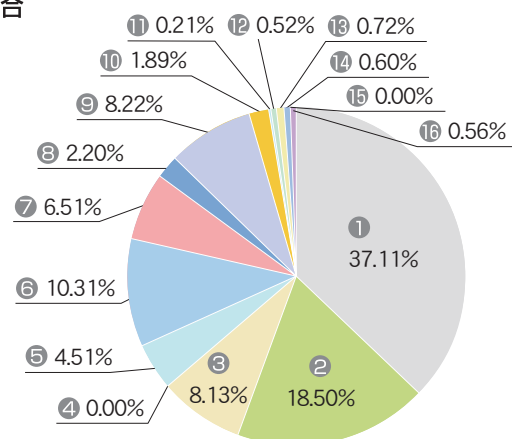
収 入 （単位:円）	
①会費等	41,719,557
②技能証の発行に基づく収入	3,463,000
③競技に関する収入	918,500
④教本等の頒布に伴う収入	991,000
⑤検定会参加費	3,030,000
⑥補助金	3,723,000
⑦機体登録費	0
⑧その他	3,454,427
前期繰越金	27,098,782
合 計	84,398,266
特定試算取崩	1,164,802

支 出 （単位:円）	
①会員サービスのために	21,373,898
②JHFの維持運営のために	10,655,078
③都道府県連盟の補助のために	4,679,883
④公益事業の推進のために	0
⑤世界選手権、アジア選手権や検定会のための積立	2,600,042
⑥広報・普及活動のために	5,937,663
⑦日本選手権や国体デモスポのために	3,747,348
⑧競技のために	1,268,971
⑨よりよい学習環境のために	4,735,639
⑩委員会活動のために	1,086,008
⑪補助動力のために	120,063
⑫学生の補助のために	300,000
⑬事故調査や安全のために	416,655
⑭海外との交流のために	347,197
⑮制度のために	0
⑯総会のために	324,099
合 計	57,592,544

収入の割合



支出の割合



2022年度の委員会活動

2023年JHF総会資料「2022年度委員会活動補足」より

ハンググライディング競技委員会

委員長：牟田園 明

- 1) ルールブックの改訂
- 2) 委員会ホームページの運営
公認大会の情報、ハンググシリーズ大会のエントリー情報の更新は随時実施
- 3) 2022年ハンググライディング・クラス1日本選手権開催 静岡県朝霧エリア 1月8日～10日 48名参加 タスク3本成立 日本選手権者：田中元気、2位砂間隆司、3位松永大輝 女子は成立要件を満たさなかったため不成立
- 4) 2022年クラス5日本選手権開催 茨城県石岡市足尾山エリア 4月7日～10日 15名参加 タスク4本成立 日本選手権者：古坂学俊、2位岩崎正芳、3位穴戸俊之
- 5) ハンググライディングシリーズ管理運営 参加人数75名 [総合] 1位小梶溪太、2位大門浩二、3位砂間隆司 [女子] 1位野尻知里、2位佐野容子、3位櫻井さやか [クラス5] 1位板垣直樹、2位古坂学俊、3位穴戸俊之
- 6) フライトコンテストの運営 [ストリートディスタンス] クラス1：1位石坂繁人 4/2 179.9km、2位服部良亮 5/3 163.7km、3位砂間隆司 5/3 151.4km クラス5：1位山本剛 4/2 195.7km、2位松田隆至 4/2 188.4km、3位穴戸俊之 4/2 181.8km [アウトアンドリターン] クラス1：1位大山真哉 3/9 54.0km、2位鈴木博司 4/9 51.4km、3位鈴木皓子 5/5 48.8km クラス5：1位松田隆至 3/7 113.6km、2位山口裕之 3/7 98.5km、3位古坂学俊 7/23 93.7km [トライアングル] クラス1：1位鈴木博司 4/9 86.9km、2位大山真哉 5/5 62.2km、3位田中元気 10/29 45.1km クラス5：1位山本剛 7/2 140.5km、2位佐々木則生 5/5 105.3km、3位松田隆至 3/7 99.8km [デュレーション] 1位児玉智雅 6/25 11:02:04、2位鳥羽岳太 6/25 10:45:14、3位山本剛 7/2 6:34:16
- 7) 各種大会のJHF公認および後援申請に対する審議および承認
- 8) SNSによる情報発信
- 9) 競技レベルの向上を目的とした事業「日本ハンググライディング競技者

育成プログラム」の立上げ

- (ア) ハンググシリーズ大会の運営支援 (2022年7月、山形県十分一山エリア)
- (イ) スポーツクラス大会の開催 (2022年8月、茨城県足尾山エリア)
- (ウ) 競技練習会の開催 (2022年10月、静岡県七曲エリア)
- (エ) Webセミナーの開催 (2022年3月、7月、8月、11月)

パラグライディング競技委員会

委員長：岡 芳樹

- 1) ルールブックの改訂
- 2) WEB事務局・ホームページ管理
- 3) 第4回アキュラシーアジア選手権へ選手派遣 (男子4名、女子3名) カザフスタン、Taldykorgan 6月21日～29日 12か国、70名参加 (内女子13名) [総合] 1位Jirasak Witeetam (タイ)、2位Mohsen Mansouri (イラン)、3位Nawaf Al-rehaili (サウジアラビア)、42位岡芳樹、45位橋本みさ紀、49位山口香代、51位浅田寛之、56位伊藤まり子、58位古賀光晴、59位平野竜二 [女子] 1位Chatika Chaisanuk (タイ)、2位Donghwa Yang (大韓民国)、3位Eunyoung Cho (大韓民国)、7位橋本みさ紀、8位山口香代、11位伊藤まり子 [国別] 1位タイ、2位大韓民国、3位カザフスタン、5位日本
- 4) Jリーグ、J2リーグ、XCリーグ、AJリーグ管理
・Jリーグ (参加人数137名、成立大会7) [オープンクラス] 1位小梶溪太、2位小林大晃、3位上山太郎 [オープンクラス女子] 1位平木啓子、2位山下敦子、3位成山奈緒 [スポーツクラス] 1位氏田敏彦、2位長島信一、3位中川喜昭
・J2リーグ (参加人数115名、成立大会2) [総合] 1位石黒信一郎、2位前島聡夫、3位力石一穂 [女子] 1位鈴木彩、2位菊田久美、3位鈴木淳子 [チーム] 1位ソラ&ドロシー、2位TEAM沢の霧、3位宮田組
・XCリーグ (59名、1126本) 1位多賀純一461.40km、2位前島聡夫448.22km、3位小林敦之425.84km
最長フライト：小林大晃150.7km

・AJリーグ (参加人数74名、成立大会5)

- [スクラッチクラス] 1位和田浩二、2位平野竜二、3位河本勇吉 [スクラッチクラス女子] 1位橋本みさ紀、2位伊藤まり子、3位山口香代 [ハンディキャップクラス] 1位和田浩二、2位河本勇吉、3位古田岳史 [学生クラス] 1位内野僚太、2位永井勇真 [チーム] 1位ぴよぴよ、2位スカイ朝霧、3位おむすび丸
- 5) 2022年度XC日本選手権開催 茨城県足尾山エリア 2022年9月16日～19日 2本成立 75人参加 (内1人海外選手) 規程により日本選手権成立 [総合] 1位小梶溪太、2位岩谷勝弘、3位宮田清和、4位小林大晃、5位岩崎拓夫、6位平木啓子 [女子] 1位平木啓子、2位成山奈緒、3位金本知子
- 6) 2022年度アキュラシー日本選手権開催 (静岡県猪之頭エリア) 2022年12月3日～4日 9ラウンド成立 36人参加 (内4人海外選手) 規程により日本選手権成立 [総合] 1位平野竜二、2位浅田寛之、3位和田浩二、4位薮哲行、5位古田岳史、6位花田瞬 [女子] 1位山口香代、2位橋本みさ紀、3位高橋美佳

安全性委員会

委員長：伊尾木 浩二

- 1) 2022年度事故件数
PG31件 (内重大事故5件) MPG6件 (内重大事故3件) HG2件 (内重大事故0件)
- 2) 事故報告書の作成
R4/7/14発生：PG 愛知県における事故報告書 (担当：伊尾木) R4/10/1発生：PPG 湘南平塚におけるMPG重大事故報告書 (担当：橋田) R5/2/5発生：MPG 広島県瀬戸死事故報告書 (担当：補助動力委員長 賀家) R5/3/5発生：PG 大分における重大事故報告書 (担当：小林)
- 3) セーフティーノーツの管理 (担当：竹村)
- ・定期的にDHV、BHPA等の情報を確認し、可能な範囲でウェブに反映
- 4) 安全性委員会ホームページ状況管理 (担当：伊尾木)

・定期的に確認

5) JHFレポートに記事の掲載

236号:2021年事故状況(伊尾木)

237号:『もったいない』事故を無くす

ために(伊尾木) 238号:MPG体験

タンデムフライトについて(安全性委

員会) 239号:『もったいない』事故

をゼロにする(伊尾木) 240号:2022

年事故状況(伊尾木)、ライザー、ハー

ネスの『ながら装着』はNG!(目黒)

6) JHFウェブページによる注意喚起
情報の提供

3/1:レッグベルト付け忘れによる

注意喚起 6/10:MPGタンデムフラ

イトの注意喚起 9/8:体験フライト

に対する注意喚起

7) チェック5タグの普及促進を継続

(安全注意喚起)

【5項目】レスキュービン、ラインチェッ

ク、バックル(レッグ→チェスト)、

無線機(通信→ロック)、風の状況

8) 機体登録の簡易化(竹村)

進展あり。WEB登録の準備中。

9) レスキューリバックテキスト改訂

10) PGパイロット安全セミナー

テキスト改訂予定で検討

11) MPGパイロット安全セミナー

テキスト改訂予定で検討

12) レスキューパラシュート2タイプ

保有(スクエア及びハイブリッド)

使用目的:リバック検定及び講習時な

どに利用とする。

教員・スクール事業委員会

委員長:北野 正浩

1) 教員実技検定会 4名(PG2名、
HG2名)

2) 教員学科集合検定会 2023.2.19~
20開催。関西(和歌山県UP PGスケー
ル)と関東(茨城県nasaスクール)の

会場。受検8名(PG4名、HG4名)

3) 上級タンデム技能証検定会 12回
開催(内HG1回) 初回合格者が3
年の期限を迎えたため、初めて継続検
定を実施。

4) 教員助教員更新講習会 12カ所
68名

5) レスキューパラシュートリバック
認定証更新講習会 12カ所 59名

6) レスキューパラシュートリバック
認定証検定会 11名

7) 教員検定員講習検定会の開催準備
(2023.3.2~3開催)

8) 上級タンデムテキストの改訂(タ

ンデム証と分冊の作業があり進捗わず
か。来年度持ち越し)

9) 教員の資質向上の支援(教員学科
検定者のためのオンライン講義と予備
講習を実施。教員検定員連絡会議で意
見聴取、3月の講習検定会で議論)

補助動力委員会

委員長:賀家 慎司

1) 安全セミナー実施

2022年10月15日~16日 石川県塩屋海
岸・塩屋地区会館 参加者合計21名
(内訳JHF会員7名、JHF&JPMA会員
4名、JPMA会員10名)

届け出先各機関・企業:加賀警察署、
加賀消防署大聖寺分署、大聖寺土木事
務所、加賀市役所(視察あり)、北國
新聞社加賀支社(取材、記事掲載によ
り) 一般見学者10名以上あり

2) 注意喚起

1 好ましい装備でないモータフライ
ト動画配信への注意喚起

2 モータータンデムによる墜落事故
での注意喚起

3 墜落クラッシュから発火事故に対
し機材取り扱い注意喚起:JPMAと情
報共有

4 大磯町住民からのクレームに対処
しての飛行モラル注意喚起

5 静岡県三保の松原での墜落事故の
原因究明と注意喚起を兼ねた解説図
ホームページ掲載

3) ホームページ 漫画「モーターパ
ラ入門」の文言修正

制度委員会

委員長:中瀬 誠

1) JHFにかかわる制度の定款、規約、
規程、規則などの文書管理

1 理事会諮問事項への答申等
技能証規程改正案作成と理事会上程
JHF助成金交付規程新規作成と理事会
上程

2 JHFホームページ上の総覧整備
(規程改正およびFAI部分) [https://
jhfh.hangpara.or.jp/office/office.html](https://jhfh.hangpara.or.jp/office/office.html)

2) 他委員会および事務局との連携
1 各種制度導入および改正について
教員・スクール事業委員会と連携

技能証規定改正

・上級タンデム技能証、教員助教員技
能証、リバック認定証の有効期限・更
新期限について

・上級タンデム技能証 練習方法や高

度定義等

2 事務局との連携

・技能証等有効期限について

・委員会委員の解任について

ハングパラ振興委員会

委員長:井上 潔

1) 今飛んでいる人が飛び続けられる
環境作り

1 フライヤーズボイスの定期更新体
制の運用と見直し

・2022.10「Flyers Voice23 高橋華恋」

2 飛ぶのを止めてしまった方の状況
分析

3 学生が卒業して止めてしまう問題
の分析と対応策検討(学連と連携)

4 家族向けパンフレット「ご家族の
皆様へ(仮称)」制作、学生向けに配布

5 JHFレポートの活用検討(フライ
ヤーからの投稿記事など)

6 SNS(Facebook等)を活用した情
報発信の検討 → 写真コンテスト検討

7 SportsNaviへの投稿

2022.6.30「パラグライダー ジャパン
リーグ第4戦目、今季絶好調の上山が
2勝目飾る」/2022.8.13「10年ぶりに
スカイフェスティバルIN南陽開催!」

/2022.9.8「パラグライダー 廣川が総
合V、女子トップは中目 ジャパンリー
グ第6戦」/2022.10.29「地元、小椋

が完全V パラグライディング日本選
手権」/2022.10.29「日本勢躍進 岩崎、
多賀、中目が入賞 パラグライディン
グW杯 韓国戦」/2022.11.15「ハング・

パラ界の大谷翔平、ハンググライディ
ング最終戦でも圧倒!」/2023.1.28

「【ハンググライディングシリーズ初戦】
大陽初優勝!安定した実力を見せる」

8 PR Timesとの協力関係締結 →
契約条件確認中

9 一般の方がハング・パラ大会を観
戦できる仕組みの検討

2) 体験会等イベントへの協力

「新しい生活様式」におけるイベント
の模索

3) 外部組織との連携

VR体験に関する大学研究室との協力
体制維持

役員選任実行委員会

委員長:鈴木 由路

1) 2023年度通常総会における役員選
任の準備

2) 役員選任規約の改定

新理事・監事が選任されました

JHFの舵取りを担う7名の抱負

6月13日（火）の2023年JHF定時総会において、正会員の投票により理事6名、監事1名の新役員が選任されました。また総会後に第1回理事会を開き、互選によって代表理事（会長・副会長）を決定しました。

新役員はいずれも理事・監事経験者です。これまでの経験を活かし、今後の新たな任期、2025年の定時総会までの2年間にどのような活動をしていくか、それぞれの抱負を聞きました。



役員選任が行われた2023年定時総会。今年度も対面ならびにオンライン（バーチャル参加）での開催となった。



理事 会長
安田 英二郎（神奈川県）

スカイスportsの普及と安全は昔からJHFが常に抱えている問題です。フックアウトやレッグベルトの締め忘れのようにエラーと事故との関係が明確なものについては一定の対策が進んできました。しかし、それでも毎年数人の死者が出ているという現状をもう少し改善していきたいと思います。

またドローン（無人航空機）の実用化による空域の調整という新たな問題が現実化しつつあります。ドローンはまず人家の少ない場所や河川上空を利用するので、われわれのフライトエリアと重なります。フライヤー全体が協力してドローンとの事故を防ぎフライトエリアを守っていきましょう。なお、国土交通省のDIPS2を検索してアカウントを作成すればドローンの現状を誰でも知ることができます。



理事 副会長
芦川 雄一郎（東京都）

JHF理事としての四期目を務めさせていただくこととなりました。

今期は安全性委員会担当理事として、ハング・パラグライディングの安全性に関する情報収集と分析を担当します。若年層へのハング・パラグライディング認知を高め、より多くの方がこのスポーツを始められるよう取り組みます。同時に、事務局担当として効率のよい組織運営に取り組みます。



理事
竹村 治雄（奈良県）

この度JHF理事としての二期目を務めさせていただくこととなりました。

今期も安全性委員会担当理事として、ハング・パラグライディングの安全性に関する情報収集と分析を、また制度委員会担当理事として各種規約の整備を進めます。

また、ハング・パラグライディングの普及と振興に関しては、JHFフライヤーのX-Alps参戦などの話題を利用して、このスポーツに対する一般の方々の認知を高め、より多くの方がこのスポーツを始められるよう取り組みます。

同時に、組織にDXを導入し、効率のよい組織運営に取り組みます。具体的には、会員証や技能証の電子化、各種手続きのオンライン化を検討します。これらの活動を通して組織の健全な発展を目指します。2年間、どうぞよろしくお願いします。



理事
橋田 明夫（香川県）

この度再任させていただきました橋田です。一期目はあっという間に終わったというのが感想です。

二期目の抱負は？と自問自答した結果「全国のフライヤーがJHFに何を望んでいるのか？」という至極当たり前のことが、今ひとつフォーカスされていないのではと思うに至りました。全ての施策の原点であるにも関わらずです。

そこで一人でも多くの方にお話を伺

う機会を得ようと思い立ちました。直接会ってのお話はもちろんのこと、電話、メールなんでも結構です。是非皆さんのご意見をお聞かせください。あしろ、こうしろとご用命くださるとなお嬉しいです。

よろしくお願いします！



理事
濱田 革（北海道）

2年間の理事経験と全国各地のエリア訪問で感じた事は、JHF理事会や委員会と全国各地のフライヤーの距離間です。

理事会や委員会は、ハンググライダー・パラグライダーが自由に空を飛べる環境作り、安全性の向上や普及振興に向けて、日々取り組んでいますが、それが末端のフライヤーには伝わっていないと感じました。

広い北海道でも県連事業に参加するのは一部のフライヤーに限られています。今回の総会でもJHFの存在感が問われる質問が出ましたが、二期目では、まず第一に、全国各地のフライヤーと一体感が持てる運営を心がけ、取り組んでいきます。



理事
山口 隆史（石川県）

理事として二期目となります。一期目は理事会や総会予算などの組み立ての流れや考え方などを学ばせていただき、その中で提案できることは提案してきた次第であります。

二期目では、より良いJHFとして、若い層にも受け入れられ、賛同いただけるJHFづくりを目指したいと思っています。

その中でいろいろと提案して、汗を流していきたいと思います。正直に今の理事や委員会のかたちでは、新たにこの仕事を希望をもってやってくれる若い方はほとんど出てこないかと思っています。

「JHF理事になって、委員会に入っ

て、こういうことを進めていきたい!!」そんなフライヤーさんが現れるような組織づくりが必要だと考えています。

批判からは何も変わらないので、中に入りやろうとする方を周囲が応援してもらいたいです。

是非、正会員の皆さん・フライヤーの方が多々、一緒になって盛りあげていくことをよろしくお願いいたします。



監事
岩村 浩秀（東京都）

監事に就任しました岩村浩秀です。監事になってかなりの日時が経過しました。

公益法人の監事の仕事は大きく分けると、①業務監査、②会計監査の二つに分かれます。

①業務監査は理事の業務執行内容が

法律、定款、公益性に問題が無いかを確認する事、②会計監査は、会計業務が正しく行われているかを確認することです。

前者は理事会に出席することで、ある程度確認できますし、後者は現預金の確認や、元帳等を精査する作業になります。

何故こんな事を書いたかという、今期は初心に戻ってJHFの理事会を見守ってきたいという事です。

JHFの動き

MPG安全フライトの見本となる動画を募集します！

JHFウェブサイト、補助動力委員会のページに、「モーターパラグライダーの安全フライトの見本」として掲載させていただく動画を募集します。ご協力をよろしくお願いします。参加資格：撮影者またはパイロットがJHFフライヤー登録有効者であること募集期間：2023年10月中旬まで賞金総額：5万円

主催・審査：JHF補助動力委員会【募集する動画の項目】

- 1 プレフライトチェック
- 2 フロントライズアップ
- 3 クロスライズアップ
- 4 無風時のライズアップ
- 5 助走からテイクオフ
- 6 テイクオフを含むジャンプ飛行
- 7 エンジンカット＆ランディングアプローチ
- 8 ランディング操作

応募方法などの詳細はJHFウェブサイトをご確認ください。

訃 報

文字英彰氏が5月7日に逝去されました。

文字氏は1990年代にパラグライディングを始め、競技者として、またオーガナイザー側でも活躍されました。様々な形でパラグライディングの普及に尽力をされ、JHF賛助会員エア・カッシーとして、また近年では上級タンデム検定員として、ご協力をいただいていた。

ご冥福をお祈り申し上げます。

JHFフライヤー会員会費 3年会費を廃止し1年会費のみに

1ページでお知らせしたとおり、6月13日の2023年定時総会で、正会員の全員一致の賛成を得て会員会費規約を改正しました。これによって2024年1月1日よりJHFフライヤー会員の年会費を1年会費のみとします。

1年会員と3年会員が混在する状態から1年会員に統一することによって、登録忘れを防止し、事務局業務の効率アップを図ります。

ドローンの実用化に伴い エリアの正確な情報把握が必須に

ドローンの実用化に伴って、ハンググライディング／パラグライディングエリアの正確な情報を把握することが必須になっています。

JHFでは、エリア管理を担当されている方々に呼びかけ、各エリアの正確な情報を提供していただき、現在得ている情報の確認、更新を行っていきます。ぜひご協力をお願いします（15ページをご覧ください）。

XCフライトで私有地にランディングした場合

XC（クロスカントリーフライト）でどこに着陸できるか、パイロットは事前に詳しく調べて計画を立てているはずですが、しかし計画通りにいかない場合も考えられます。

XCフライトの着陸では、以下のことを忘れないでください。

着陸地点が海岸や河川敷でなければ、多くの場合は私有地です。

私有地にあるものはすべて財物であり、木1本、枝1本でも破損した場合、所有者に連絡をしなければなりません。

まずは、すみやかに機体をたたみましょう。

地元の人が通りかかったらすぐに声をかけて、無断で降りたことを詫言、事情を話して、降りた土地の地権者を聞きます。誰も通らなければ、近所の家を訪ねて事情を話し、地権者に挨拶をします。

「何も植えてない農地だから心配しなくてよい」と言われることもありますが、これは挨拶をしたから帳消しになったと考えるべきで、無断で立ち去っても許されると勘違いしてはなりません。

JHF事務局には「もうこの地域の上を飛ばないで欲しい」と要望が寄せられることもあります。

飛ぶ自由を守るためにも、空を飛ばせていただいているという気持ちでマナーを守って対応してください。

ハンググライディング教本、パラグライディング教本のクロスカントリー教習課程には、飛行計画、地形、社会的条件、気象条件、サポート、飛行報告等についての記載があります。初心を忘れず、あらためて教本もご確認ください。

皆さまのご理解、ご協力をお願いします。

教員検定員14名、始動。

自由な飛行の環境を守り未来につなぐために

2023年3月31日に前期教員検定員の任期満了を迎えるにあたり、3月2日・3日に静岡県富士宮市においてJHF教員検定員研修検定会を実施。各都道府県連盟の推薦を受けた候補者の方々に参加いただき、教員・スクール事業委員会が中心となって研修と実技検定を行いました。

JHF教員検定員制度は、全国各地においてハンググライディング、パラグライディングの健全な発展と安全確保、技能レベルの標準化など、指導的役割を担っていただく方を認定する重要なものです。

教員検定員は、教員実技検定、安全セミナーも含め講習会や検定会の講師、事故の調査も行います。

研修・検定の結果、2023～2025年度JHF教員検定員として認定された14名の方々からの「ひとこと」をお聞きください。

*PG=パラグライディング、HG=ハンググライディング、連盟名は推薦を受けた道県連盟。



【PG】
田代 茂樹
北海道ハング・
パラグライディング連盟

北海道の帯広と釧路のほぼ中間、浦幌町にある十勝太エリアでスクールを運営しています。安全に楽しく教習が出来るよう最新の情報発信を行っています。

地方ではフライヤーの減少が特に顕著ですが現存のフライヤーが減少することよりも新たなフライヤーが増えないことに危機感を感じています。次世代にこのスポーツをつなげていく為に何が出来るか模索中です。

引き続き3年間の教員検定員を任命されましたのでよろしくお願いいたします。



【PG】
西泉 隆広
北海道ハング・
パラグライディング連盟

全国のパラフライヤーの皆様、はじめまして、北海道はルスツパラグライディング代表の西泉です。

今年度より教員検定員を務めさせて頂くことになりました。

パラグライダーで空を飛ぶ楽しさを多くの方に伝えるために正しい知識を広め、新しく始める人達がパラグライディングを安全に楽しめる環境の構築に貢献したいと思います。よろしくお願いします。



【PG】
金井 誠
山形県ハング・
パラグライディング連盟

他のスポーツ団体の方からは素晴らしい生涯スポーツと羨ましがられますが、毎年10人も死亡していると知らればドン引きされます。何としても、きちんと基本を守っていれば防げる「もったいない」死亡事故を0に。

事故の教訓を毎日の講習やエリア管理に実践していける立派な先生を育てる事が、安全意識と技術を普及させてゆく為に一番必要と思います。更新講習会、安全セミナーなどの機会を最大限生かせるように取り組んでゆきます。



【PG】
伊尾木 浩二
群馬県ハング・
パラグライディング連盟

今回も引き続き教員検定員をつとめることになりました。今後も今まで同様に検定員として自分自身が見本になるような役割と指導、安全意識向上、事故を減らせるような取り組みを行っていききたいと思います。



【PG】
殿塚 裕紀
栃木県ハング・
パラグライディング連盟

インストラクターは、皆さんの「空を飛びたい」という夢を叶えることができる、素敵な仕事です。良いインストラクターが増えれば、夢を叶えられる方も増えます。

パラグライダーを仕事にして23年。技術の向上はもちろん講師研修を受けたり、コーチングの資格を取ったりと指導方法についても学んできました。

今後は、良いインストラクターが増えるよう、育成にも力を入れていきます。情報が届きにくい地域の方には、Youtubeでノウハウを発信しています。「パラグライダー大学」をご覧ください。



【PG/HG】
板垣 直樹
茨城県ハング・
パラグライディング連盟

フライヤー人口は減少傾向ですが機材の進化は止まりません。教員検定員研修会では新しい技術や知識を学ぶ事が出来、感謝しています。

私も加齢により飛行技術、体力の低下は否めませんが、年間200本以上飛び現状を維持するようにしています。今年は世界選手権にも出場します。私の知識や経験を少しでも皆さんにフィードバック出来るよう努めます。

このスポーツがこれからも楽しく安全に続いていくように、3年間の任期中に教員の更新と新規検定を数回、実技を中心に行います。受講される方は事前にしっかりと練習をしてからお願いします。



【PG】
福田 武史
茨城県ハング・
パラグライディング連盟

検定員として、安全かつ継続的なパイロット育成に貢献し、常に最新の情報を追求め、自己啓発を怠らず、適切なアドバイスと検定を心がけます。また、安全第一を徹底し、事故やリスクを最小限に抑えるための努力をしています。

さまざまなご意見等に耳を傾け、コミュニティの結束を促し、相互の尊重

と連帯感を重点とし、自己技術向上の継続と、常に誠実さと責任感を持って、安全に自由な空を楽しめるようサポートできればと思っています。



【HG】
北野 正浩
茨城県ハング・
パラグライディング連盟

空を飛び始めて30年以上になります。皆さんにも今後30年、40年と、自分が楽しんできたのと同じかそれ以上に続けていける環境を残すことが私のライフワークです。

教員検定員として、教員・助教員の検定や更新講習や、一般パイロット向けの安全セミナーを通じて、長く安全に楽しく続ける方法をお伝えしていきたいと考えています。ご要望があればどこにでも駆けつけますし、オンラインで実施できることもあります。是非お声掛けください。



【PG】
目黒 敏
静岡県フライヤー連盟

JHFの活動としては安全性委員、静岡県フライヤー連盟理事長とスクール事業委員を担当しています。競技活動も自身のトレーニングとしても、J1・J2リーグへも参加しています。仕事としてもパラグライディング用品の輸入・販売、パラグライダースクールとエリア運営を行っています。

パラグライダーは、いつの間にか30数年のキャリアになっており、その間、仕事などを通して多くのパラグライダーメーカーやデザイナーと繋がりを持つことができました。それらを教員検定員での業務にも活かせるものがあれば、発揮していきたいと思っています。



【PG】
加賀山 務
静岡県フライヤー連盟

今期もJHF教員検定員を拝命させていただきました。

コロナも終息に向かいつつあるなか、現場での検定機会も増えていくことと思います。検定や講習の際には、できる限り丁寧な説明で最近のフライト環境および安全対策について皆様へ

お伝えできるように努力してまいりますので、よろしくお願い申し上げます。



【PG】
山口 隆文
石川県フライヤー連盟

日本のパラグライダー業界は高齢化してきていると言えども、若いフライヤーは一定数います。ベテラン教員やフライヤーが若い教員やフライヤーに対して受け入れられるような指導や経験の伝達をしっかりと行えるよう手助けとなる活動ができたらと考えています。

スポーツは、資質の向上が安全の向上と、さらに業界全体の発展へとつながると信じ活動させていただきます。よろしくお願いいたします。



【HG】
外村 仁克
和歌山県フライヤー連盟

活動の拠点となる和歌山県の紀の川フライトパークで、エリア管理を通じて主にハングフライヤーの安全管理に努めています。

昨今、スカイスportsの世界では機材や装備の進化が目覚しく、誰もが簡単に飛べるようになりましたが、機材や装備が進化したから安全になったとは一概に言えないように思います。

生徒や仲間が安全に空を飛べるように、真摯に指導してくれる教員、助教員が育てられたらなーと思います。



【PG】
片岡 義夫
鳥取県フライヤー連盟

長い間検定員をやらせていただいてきて、正直、過去の検定では厳し過ぎる判定や逆に安易に教員の資格を与えていた検定員がいたこともあったと思います。

現在は、上級タンデム検定や更新保留制度のせいで厳しくなったイメージだけが強いですが、合格率の低い教習実技の事前講習や実技の細かい項目を決めて検定員同士で同じ判定になるように摺り合わせや話し合いもしているので、検定自体は良い方向に進んでい

ます。

ただ教員資格の必要性や価値が下がったのか、教員になりたいと思う人(特に若手)が減ったのは反省点です。



【HG】
松村 隆博
鳥取県フライヤー連盟

クロカン飛行にのめり込んだり、競技フライトに没頭したり、自由に飛ぶことを満喫しているうちに、もうすぐ30年になります。

そのあいだに起こってしまった重大事故に幾度となく心を痛め、教える人・練習場所の減少を危惧することも昨今は多くなりました。

今後の人達に、安全に楽しく飛ぶことのできる環境、そして飛びたいと思った人が、この楽しさを知ることができる環境を残すために、今回、検定員として活動させていただくことにしました。どうぞよろしくお願いいたします！

三つのHG世界選手権 北マケドニアで開催！

8月6日～19日、北マケドニアで三つのFAIハンググライディング世界選手権が開催されます。コロナ禍で延期になっていた間、世界の頂点をめざすパイロットたちは切磋琢磨を続けてきました。日本代表チームに厚い応援を！なお、有志によるハングエイドも始まっています。

<http://www.hang-aid.com/index.html>
日本代表チーム

【クラス1】

名草慧 鈴木由路 鈴木博司
小高史郎 氏家良彦 砂間隆司
チームリーダー：浅井将平
サポート：外村仁克

【クラス5】

板垣直樹（チームリーダー兼務）
山口裕之 岩崎正芳 櫻井大朗
松田隆至
サポート：富岡好次郎

【女子】

野尻知里

*女子世界選手権は、4か国8人以上参加の規定を満たし開催の予定。

ベテランフライヤーによる事故

JHF安全性委員会 佐藤 克久

2023年がスタートして以降、残念ながら事故が多発しております。

そして近年の傾向として、かなりのベテランによる事故が目立っております。

正直、「あの人が何で？」というパターンです。

なぜこのような事になるのでしょうか。あれだけスキルが高かった方が…

なぜ本来上級者であるはずの人たちが事故に遭うのでしょうか？

パラグライダーと違うスポーツの方々から見たならば「技術的に未熟だから、または経験の浅い初心者が失敗するのなら理解できるけど…」と不思議に感じるはずです。

今回はその要因について考えてみたいと思います。

1 身体能力や判断機能の低下を自覚できていますか？

言うまでもなくベテランであれば経験年数が多い分、加齢が進んでいます。そのままでは上記の能力が年数とともに衰えていきます。

その為の対応をとっていますか？
過去には素晴らしい技術を持っていたとしても今はどうでしょうか？ 加齢による体力、反射神経の劣化を補っていくだけのトレーニングを行っていますか？

残念ながら、一部のアスリートを除いて出来ているようには感じられません。

2 練習量は充分なんでしょうか？

講習生の頃はかなりの練習量だったと思います。それに比例してメキメキ上達していったことと思われるのですが、今の状態はどうでしょうか？

講習生の練習中にベテラン同士でしゃべりしているだけだったりしていませんか？

現状の練習量でフライトスキルを維持していけるのでしょうか？

講習生時代と同じであったとしても肉体的な衰えはカバーできないものです。むしろスキル維持を目指すのであれば、以前よりも練習量を増やしていかなければ維持していけないものと考えられます。

3 フライトに対する知識、情報は現状と合致していますか？

一昔前のパラグライダーの情報、知識と比較して、現在はこのあたりも格段に進歩しています。

その情報取得の手段は概ねスクールに依存する形となっていますが、かなり昔に卒業している場合、本人の積極的な参加意思が無ければ、古いままの

2023年前半の事故報告

	日付	機材	内容	EN	年齢	経験	性別	練習生	怪我の状況
1	1月31日	PG	潰れて旋回し回復後、翼に包まれ落下		53		男		死亡
2	2月5日	MPG	接続ミスの疑い、スパイラルダイブ海面着水、フロートあり		75	32	男		溺死
3	2月5日	PG	ソアリング中に接近し、回避したが接触	A	53	1	男	NP	無傷
		PG						B	無傷
4	2月5日	PG	テイクオフで煽られて、翼端側にいたサポーターに激突	D	58	18	男		無傷
5	2月19日	PG	ランディングアプローチミス	A	57	3	男	B	骨盤骨折
6	2月27日	PG	サーマルで下から上昇中、上の人に接触（約20年ブランク）	B	63	2	男		無傷
		PG		A	54	2	男		無傷
7	3月5日	PG	離陸後、高度約20mから潰れにより斜面草地に落下	B	67	30～	男		死亡
8	3月19日	HG	LDアプローチミス。弱フォローでLD場端のコンクリートに衝突		72	30～	男		頭部強打・重症
9	3月30日	HG	LDアプローチ時に電線超えられず、ツリーランの判断		52	32	男		無傷
10	4月1日	PGTD	テイクオフ時に煽られ離陸後、右方向の立木に衝突落下		65	20	男		同乗者左肋骨・右足首骨折
11	4月2日	HG	着地寸前にあおられ、右翼からクラッシュ		71	30～	男		頸椎骨折・重症
12	4月5日	PG	テイクオフ時に飛び乗り木に接触し落下	A	62	2	男	1	足首骨折
13	4月9日	HG	場外着陸時に、ハードクラッシュし救急搬送（詳細不明）		47	29	男		頸椎骨折・重症
14	4月26日	PG	スピードグライダーで急旋回を失敗し砂の斜面に衝突	C	56	30～	男		脊椎骨折・後死亡
15	4月29日	PG	無理にトップランディング試みてハードランディング	C	52	33	男		右足首骨折
16	5月1日	PG	ランディングアプローチで潰されスパイラルで藪へ落下		70	23	男		腰椎圧迫骨折
17	5月3日	PG+PG	前進中、下方を注意しすぎて上方の機体と接触	B	49	25	男		両者無傷
18	5月4日	PG	着陸時2～3mから失速し落下（詳細不明）		54		男		不明
19	5月11日	PG	ブレークを引きすぎて失速（詳細不明）		40		男		右腕骨折
20	5月26日	PG	世界選手権 潰れから回復後、足が木に接触して落下	CCC	56	22	男		脳挫傷・頸椎損傷
21	5月27日	PG	15mより落下（詳細不明）		59		男		背骨骨折
22	6月17日	PG	湖に着水（詳細不明）意識レベル低くドクターヘリで搬送		50		女		不明
23	6月17日	PG	水田に着陸。脱出時に水稻を倒伏。	B	74	28	男		無傷
24	6月17日	PG	着陸時に立ち木に接触し3m程度から墜落	A	61	3	男		肋骨骨折
25	6月17日	PGTD	タンデム練習中の着地失敗。		63		男		パイロット打撲
					22	B級	男		同乗者圧迫骨折

認識で操作していることになります。

ついていけていますか、現在の技術に対する知識？ 講習生の方がスクールの座学等でより理解度が高いケースが見受けられます。

4 年間のフライト本数は

どのように変化していますか？

性能向上著しい現在のフライトギアでは長時間フライトが普通になり、1日1フライトで終了などということがザラとなっています。

当然ながら1テイクオフ、1ランディングです。通常このままでは技術は劣化しますね。

実際、テイクオフ、ランディングが下手すぎて迷惑な、講習生に失笑されているベテランの姿をよく見かけませんか？

5 フライトコンディションの選定は適正でしょうか？

フライトの判断を自分だけで決めていませんか？ 周囲の意見に耳を貸す事が出来ていますか？ 経験則のみの

判断に依存しすぎていないでしょうか？

ビギナーのフライヤーには情報提供をしてくれる人は多くいますが、どうしてもベテランには遠慮がちになってしまっているものです。

6 使用機材は大丈夫？

以前では使えていたであろう重装備。現在も扱いされていますか？

装備を軽くすることにより、より円滑にフットワークが使えるようになります。重い装備で滑空性能を伸ばせるというのはある面事実ですが、対応するには相応のトレーニングが必要となります。

また、グライダーも従来のクラスって本当に必要なのでしょうか？

その高性能は何の為に生かすのか？ 自分のフライトスタイルにどうしても必要なものなのでしょうか？

深く突き詰めて考えていくなら意外にもシンプルなところに落ち着くものです。

他にも色々要因が考えられると思いますが…

ベテランフライヤーの皆さん、概ね1～6のどれか、または数点が該当しているのではないのでしょうか？

現在の自分の状態を客観的に見つめなおす時期に差し掛かってきているのかもしれない。

そして今の自分に足りなくなってしまった部分をどのように補っていくべきなのか考えてみましょう。

講習生と一緒にトレーニングするもよし、穏やかなコンディションからフライトを重ねて感覚を鈍らせない様にするとか、または装備を変えてより容易に操作出来るものを選ぶとか、アプローチはいくらでも考えられます。

要は、現状を自覚できるか？ 自覚出来るなら、おのずと対策は取れるものです。

これから暑いシーズンになってきます。普段と同じつもりでも自然と集中力、体力は消耗していきます。よりいっそう自分を見つめなおしたうえで、楽しいフライトを行ってください！

経験豊富なはずのHGフライヤーの事故が多発！

JHF安全性委員会 山本 貢

今年になって、不幸にして起こってしまったハンググライダーの事故は、経験豊富なはずのフライヤーの、基本的な判断ミスによるものが多いです。

長年飛んでいると、いつしか、空を飛ぶことを当たり前に考えがちになりますが…。

空を飛ぶことには、非日常の世界がそこに存在しており、何かミスがあれば、それは必ず事故につながります。

「自分は事故なんて起こさない。」ではなく、「何かあれば、いつでも事故につながってしまう。だから、注意しなければ…」そういう考え方で、フ

ライトするようお願いいたします。

大事故を起こしてしまうと、一生病院生活を強いられたり、家庭が崩壊したり、命を落とすことだってあり得ます。

そのことを、今一度考えてみてください。

事故や安全関連の情報収集にご協力をお願いします

JHFでは、安全性向上のためにアクシデント・インシデントに関する情報を収集してきましたが、さらに簡単に情報の提供をしていただけるよう、JHFウェブサイトの窓口を刷新しました。会員ページトップ、左上の「JHF安全情報収集ページ」から情報収集にご協力ください。

【あなたがフライヤー、エリア管理者、インストラクター等関係者の場合】

●アクシデント（怪我をしたり第三者に損害を与えた場合）の報告は→**事故報告**

●インシデント（ヒヤリ・ハットなど、損害の無い不時着などアクシデントには至らない場合の報告）は→**インシデントレポート**

●パラグライダーの安全フライトに関

するヒント（あなたが実践している安全フライトのための工夫を共有してください）→**安全フライトヒント集**（準備中）

【あなたが一般の方、あるいは報告事項の当事者でない場合】

●事故等目撃情報（あなたが当事者でなく、目撃したアクシデント、インシデントについて報告）は→**事故等目撃レポート**

アルプス山塊上空での熾烈な戦い、フランス圧勝！

2023年5月20日-6月3日 フランス Chaoux-sur-Gelon 報告：チームリーダー 長島 信一

パラグライディング世界選手権がフランスで開催され、日本チームは廣川靖晃、成山基義、上山太朗、平木啓子、小林大晃各選手、長島信一（チームリーダー）、成山奈緒（アシスタント）、以上7名で参戦した。

1. 大会概要

開催場所のChaoux-sur-Gelonはアルペールビル南側に位置するエリア。アネシーエリアから続くアルプス山塊の南側に位置する場所で、40km四方のアルプス山地を舞台に世界選手権の戦いが始まった。参加は56ヶ国、150名。

2. エリア特性

山塊の西側にはバリまで続く平野部が広がり、午後には西風が強くなる。メインの風は基本的に西風だが、谷筋を抜けるバレーウインドが複雑に吹き

抜け選手たちを翻弄する。サーマルポイントでは西風のリーサイド側が基本となるが、本流が弱ければフロントサイドにも発達が期待できる。

40km四方の山塊全体が城塞都市のような形状を呈しており、各山脈には岩壁が立ち上がり、内部地形は複雑を極め各所にリフトとシンクを引き起こし、時として凶暴な乱流も待ち受けている。大会で戦うにはアルプスの風を理解することが先決。幸いにもフランスチーム監督からエリアの風特性を可視化したデータファイルが提供されたことに感謝したい。

テイクオフは、状況に応じて北側はシャモニー手前のパッシーから西側のセムノース、南はグルノーブル手前のイカロスカップで有名なサンティレール、湖上フライトが素敵なアネシーTOももちろん使用する。

メインテイクオフとなるのはHQ（ヘッドクォーター）から近いモンランペールTO、一度に6機がスタート出来る理想的な場所である。ただし、テイクオフまでシャトルは行けず10分ほどの歩きが必要となるので、日本チームにとってはハードルの高いテイクオフとなった。特に体重程の装備を持つ小林選手には頭がさがる。



日本チーム。中央後方が長島チームリーダー。



巨大岩壁に沿って展開されるレース。まずはアルプスの風を理解することが求められる。撮影：小林大晃選手

3. フライト機材

前回の世界選手権から投入されたラムエアー型の潜水艦タイプハーネスが各社（Ozone, Jin, Woodyballey, ニアバード）からリリースされ、選手の8割以上が使用するに至った。多くの選手が新型ハーネスを実戦投入して間がないので綺麗な状態だ。プロトタイプも多く、各ハーネスが進化の途中であることがうかがえる。

4. フライト

【Task 1】

メインエリアの山塊付近が雲に覆われてリフトが期待出来ない。そこで、南端にあるサンティレールエリアがTask 1の舞台に。HQから1時間程の駐車場へ集合。10機ほどが広げられる南TO、あっという間にゲートやら地図やタスクボードが設置されて準備完了、オーガナイザーの手際の良さは感動ものです。

タスクは83km、岩壁沿いに左右に振ってから対岸に渡って左右に振って、最後はHQへゴールする。岩壁沿いのスピード勝負になりそうな気配。チームは小林を残して順調にテイクオフ、小林はどんな時でもマイペースでテイクオフは最後と決めているようだ。

40分程で選手全員が一掃されスタートを待っていると、一人落ちたのでヘリコプターがくると無線が入る。タスクキャンセルかと思いきや続行すると、バラを避けてヘリが飛ぶから問題ないと、さすが世界選手権ともなると救助態勢も半端ないと感心しきり。

何事もなかったかのようにスタートが切られ、先頭集団が岩壁スレスレをフルスピードで抜けて行く。チームも第二集団付近を順調に進んで行く。先頭集団が対岸に渡り折り返す頃、高層雲が張り出して来て、行く手の日照が消えていく、そのまま突っ込む集団が次々と降っていく。チームへ、先へ急がずにじっくり上げるように情報を流すと、第二集団にいた小林と平木が生き残りゴールへ到達した。20人ゴールの10番台と大金星である。国別でも5



頂点をめざして一斉に動き出す。選手たちの脳内にゴールへの道が組み立てられていく。撮影：小林大晃選手

位と大健闘の初日が終わった。

【Task2】

上空に寒気が入り午後から不安定予報、モンランベールTOから早めのショートタスク60km。山沿いを左右に振ってから対岸を大きく左右に行ったり来たりでHQゴール、後半は雷雨になる可能性大とブリーフィング。

早々にゲートオープン、30分ほどでTOから選手がいなくなる。右側のリフト帯は150機がひしめく大混雑、あちこちで接触が発生している。落ちてこないのが不思議なくらいだ。

山上に上がった50機ほどが好スタートを切りレース開始、低くスタートする選手は苦しい展開でさらに遅れていく。対岸に渡ってからは高度も上がらずにスピードが上がらない、バレーウインドも強くなり雲の発達も急速に進む。90分を過ぎたところでタスクストップ、びしょ濡れになりながら降りてくる機体もあり、激しさを物語っている。

【Task3】

2日間の天候悪化キャンセル明けは好天、テイクオフをアネシーに移しての3タスク目。タンデムやSIVで大混雑のアネシーTOをいきなり閉鎖してゲートを作成、パイロットから文句が来ないのは何故だろう。決定したタスクは100km、アネシー周辺を回って、山塊へぐるっと回ってHQゴール、天気が良いから集団でスピード勝負に違いない。

150機近くが岩壁の上空から湖へ向かってスタートする様は壮観、トップスピードは70キロを超えている。

チームは順調にパイロンを重ねてHQゴールへ到着、条件が良くなると岩壁際のアクセル勝負、慣れないとストレスが溜まってくる。

【Task4】

平野部からの西風が弱い予報。西端にあるセムノースTOがスタート地点、高速使って1時間、山塊の全てのテイクオフが使えるのが素晴らしい。テイクオフは尾根上の牧草地、10機以上がいっぺんにスタート出来る。タスクは100km、セムノース尾根の南端からアネシーTO奥を巡って山塊をジグザグにHQゴールを目指す。

チームは全員ゴール、きっちり点数を積み上げます。

【Task5-8】

タスク5から8までは西風も弱まり、メインテイクオフのモンランベールを使い、西側に広がるアルプス山塊を縦横無尽に行き来するタスクが展開された。地元フランスチームが強さを発揮し8タスク終了時点で上位を独占する結果となった。チームは日々ゴールを重ね国別順位を維持したのである。

【Task9】

最終日は午後から雷雨予報、山塊は発達が著しく入れず、サンティレールからの53kmのショートタスク、岩壁沿いの超ハイスピードレース。スタート後はほぼ旋回することなく対岸に渡



女子5位となった平木啓子選手。撮影：廣川靖晃選手

り、ワンサーマル上げたらゴールへフルアクセル、先頭集団の見切りの素晴らしいさに感嘆しきり。チームもきっちりゴールを決め終了となった。

結果は、フランスチームが国別1位、個人総合の1～3位、女子1～2位を独占する完全優勝、日本チームは国別14位、女子で平木5位、総合で小林48位となった。

【総合】

- 1位 Maxime Pinot フランス
- 2位 Honorin Hamard フランス
- 3位 Pierre Remy フランス

【女子】

- 1位 Meryl Delferriere フランス
- 2位 Constance Mettetal フランス
- 3位 Nanda Walliser スイス

【国別】

- 1位 フランス
- 2位 イギリス
- 3位 北マケドニア

X-Alps 江本選手ゴール！

6月11日から23日まで、アルプスを舞台に開催されたX-Alps2023。初出場の江本悠滋選手が見事ゴールしました！

ご存知のように、X-Alpsは決められた期間内にアルプスを翺破／踏破するという過酷なレース。応援されていた皆さんも感動冷めやらぬことと思います。少し間が空いてしましますが、10月30日発行JHFレポート(243号)に江本選手の報告を掲載します。お楽しみに！

板垣直樹、強い気持ちを貫き選手権奪還。

2023年3月30日-4月2日 茨城県石岡市 足尾ハンググライダーエリア 報告：選手 板垣 直樹

Class5ハンググライダーは機体性能の進化が留まることを知らず、年々滑空比や沈下率など性能がめざましく上がっている。当然、パイロットも機体性能に合わせ飛び方を進化させていかないと本来の機体性能を発揮させられない。

パイロットは、その滑空性能を引き出すための技術の向上と判断力が必要となる。もちろんこのスポーツに特有の守る所はしっかりと守り、攻める所は自信と勇気をもってしっかり攻める！ そういう飛びがいつも出来れば良いが、なかなか難しい。何十キロも飛んでいると当然、判断を誤る事もあるが、冷静に判断し修正しつつも常に強い気持ちをもって飛ぶのが私のスタイルだ。

Class5の競技は一人で飛んでいく場面が多い。参加選手が少ないという事もあるが、滑空速度の幅（通常のグライドは約45km/h～80km/h）が大きく、滑空比がいいので選手が離れやすいからだ。※失速速度は約30km/hで最高速は135km/h程度

還暦を前に体力の衰えは感じるが自分の飛びのスタイル「他の選手より早く上げ先頭を飛び、的確にサーマルを探す」、この精度を更に磨き、限界を決めず更なる景色を見られるように進化したと思う。

今回の大会はけっして好条件という訳ではなく、風が強くトリッキーな場面も多かった。コース取りを誤るとすぐに低くなりピンチになる場面も少なくなかった。

初日はスタートでトップになるが、一人で勢い良く飛び出して谷渡りで狙った雲が上がらず、いきなりのピンチとなる。その後、後続の集団に遥かに上を越えられ遅れたが、それでも粘って降りずに、結果、二番でゴールした。

2日目は逆にスタートで慎重になりトップの選手について行けずに出遅れるが、その後は強気の飛びで、渋い、ヘッドのLEGを一人で飛びきり運にも恵まれ一番でゴールできた。

大会参加選手は常連がほとんどだが、その中で切磋琢磨し年々レベルが上がってきている。去年は好条件の日

本選手権で優勝を逃したので、今回は優勝でき良かった。この良い流れで8月の世界選手権もしっかりと準備し自分の納得できる飛びを貫きたい。

[上位成績]

1位	板垣 直樹	茨 城	1924
2位	櫻井 大朗	栃 木	1649
3位	岡田 伸弘	静 岡	1558
4位	古坂 学俊	茨 城	1456
5位	塩野 正光	栃 木	1192
6位	富原 淳	埼 玉	1094



進化を続けてきた板垣直樹選手、日本一の座を奪還した。

JHFからのお知らせ

■JHF会費のd払いができます

JHF会費のウォレット請求書払いで利用可能な決済アプリ（LINEPay、auPAY、PayB）に追加して、この7月からd払いが可能になりました。

ウォレット請求書払いとは、払込票に記載されたバーコードを、ウォレットサービスのスマートフォンアプリで読み取ることでお支払いを可能にするものです。

会員登録更新案内の払込票に記載されたバーコードを読み取って決済してください。決済が完了しましたら、事務局でデータ確認ができ次第、ご登録の住所宛に会員証をお送りします。

決済から1週間が過ぎてもお手元に会員証が届かない場合は、お手数をおかけしますが、JHF事務局までお問い合わせください。

■JHF会費が1年会費のみになります

JHF会員会費規約が6月13日JHF総会で承認されました。

これまで1年会費、3年会費での登録でしたが、2024年1月1日よりJHFフライヤー会員会費が1年会費のみになります。これによって、事務局業務の効率化も図ります。

2024年1月1日以降に登録更新を迎える会員の方へのご案内は2023年10月開始の予定です。どうぞよろしくお願い致します。

■JHFインスタ：ショート映像募集

JHF公式Instagramを始めました（右のQRコードから）。

広報活動のひとつとして、パラグライダー、ハンググライダーを知らない方に興味を持ってもらえるような、気持ちよさそう！飛んでみたい！というショート映像を紹介していきます。

つきましては、会員の皆さまにも、

楽しさが伝わる映像のご提供をお願いします。画像も可です。

ハンググライダーまたはパラグライダーでのテイクオフ、フライト、旋回、ランディング等をしている15秒～60秒程度の動画をお願いします。あなたやお仲間の動画をぜひ！ただし一般の人が見て危険に感じるようなものはNGです。詳細はJHFウェブサイトをご覧ください。



■エリア情報を集めています

ドローン実用化に伴いハンググライダー、パラグライダーのエリアの正確な把握が必須になっています。

エリア管理を担当されている皆様、エリア名、テイクオフ、ランディング所在地、GPSコード情報をお知らせください。現在把握の情報はJHFウェブ

サイトに掲載しています（下のQRコードからご覧ください）。



現在の情報をご確認の上、変更、追記等をご連絡ください。特に、テイクオフ、ランディングのGPSコードが記入されていないエリアの担当の方は、ぜひ教えてください。ウェブフォームからご入力可能です（下のQRコード）。



会員の皆様からの、ご存知のエリアについての情報もお待ちしています。

JHFフォトコンテスト開催 お気軽にご応募ください！

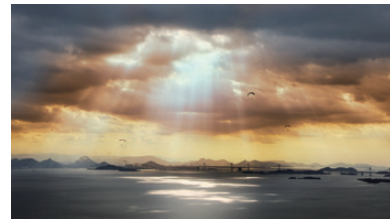
2023年度もJHFハンググライダー・パラグライダーフォトコンテストを開催します。ハンググライダーやパラグライダーの写真ができるだけ多くの人々の目に触れることにより、このスポーツの認知度が上がり、より一層の普及のために役立つと考え、2010年から開催し、今回で10回目を数えます。

ハンググライディング・パラグライディングの醍醐味や楽しさを伝えられる作品を募集します。お気軽にご応募ください。データでも応募可

能です。

担当者一同、楽しみにお待ちしております。

募集要項等はJHFウェブサイトのトピックスでお知らせしています。応募締切日は2023年9月5日（火）です。



第9回最優秀賞「光の射す方へ」 深野達也さん作品

学連ニュース

今年度より学生フライヤー連盟（JSFF）理事長に就任いたしました櫻井悠馬です。今回は現在の活動状況の報告と、今後の抱負について述べていきます。

現在の活動状況ですが、まず新歓活動が無事終了しました。連盟等様々な方からのご協力をいただきながら、結果として多くの新入生を呼び込めたと感じています。

足尾エリアでは、例年通り多摩川河川敷での浮遊体験・VR体験を行うとともに、実際の現地での活動を一日通して体験してもらいました。その成果もあり、たくさんの新入生が入部してくれました。また今年度は新たな試みとして、GWに新入生の歓迎会・交流

会もかねて講習合宿を行いました。現役学生だけでなくOB等たくさんの方に参加してもらい、にぎやかな雰囲気の中で合宿を楽しむことが出来ました。講習だけでなく花火や料理といったイベントを通して、新入生同士、そして先輩たちとも仲を深めることが出来たように思います。今後はこういった活動を推進するとともに、学連からも支援をしていきたいと考えております。

続いて、今後の抱負についてです。今年度のスローガンは「大会・遠征の復活と活性化」に決定致しました。昨年度の開催は、ハンググライダー2大会、パラグライダー1大会と、まだ従来の大会数には程遠いものになっています。今年度学連からは、大会運営に対して積極的に支援をしていき、学生大会の復活と活性化を目指していきます。今年度は既に新人戦含めコロナ以前の大会を復活させる目途がたつていきますので、今後とも皆様のご協力をお願いいたします。たくさんのエント

リーをお待ちしております。大会等を通じて学生フライヤーの活動を盛り上げていきましょう。

既に日程が確定しているものと、8月下旬に尾神岳paraglider student cupが、9月中旬には足尾エリアでnasa student cupが開催予定です。10月頃にはハング、パラそれぞれ新人戦を予定しております。また、9月上旬には砂丘合宿も開催されます。こういった遠征も学生間の交流を深める良い機会になると思います。他エリアの学生フライヤーと仲良くなるのはスカイスポーツをやる上でモチベーションの向上にも繋がります。たくさんの講習生のご参加をお待ちしております。

今年度は学生大会の復活と活性化を目指して取り組んでいきます。至らないところも多いかと思いますが、ぜひ温かい目で見守っていただければと思います。大会や遠征に楽しさを感じて、学生フライヤー人口が増えてくれることを願っています。



恒例、多摩川河川敷での浮遊体験・VR体験。一日を通して活動を身近なものに感じてもらった結果、多くの新入生が入部。今年度はこのような活動を推進し、大会も増やしていきたい。

JHFからのお願い

■お名前・ご住所が変わったら 早めにお知らせください

発行のたびに宛先不明で戻ってくるJHFレポートが少なくありません。

JHFレポートには、フライヤー会員の皆さまにぜひ読んでいただきたい情報を掲載しています。氏名や住所に変更があったら、お手数ですが早めにメールかFAXで事務局にお知らせください。

[お知らせいただきたいこと]

- ・フライヤー会員番号
- ・お名前（氏名変更の場合は新旧名）
- ・新しいご住所
- ・連絡先電話番号
- ・メールアドレス

もしフライトのお仲間に転居された方や、お名前が変わった方がいたなら「JHFに変更の連絡をした？」と声を

かけていただけると、たいへん助かります。

■各種申し込みやお知らせ お問い合わせはJHF事務局へ

公益社団法人

日本ハング・パラグライディング連盟

〒114-0015 東京都北区中里1-1-301

TEL.03-5834-2889 FAX.03-5834-2089

E-mail:info@jhf.hangpara.or.jp

<https://jhf.hangpara.or.jp>

事務局業務の効率化のため、ご連絡はできるだけメールでお願いします。回答が通常より遅れることがあります。が、順次対応をいたしますのでご理解ください。

*このJHFレポートには、賛助会員からのお知らせを、神奈川県在住の方には県連盟からのお知らせも同封しています。

被災地復興 応援プロジェクト 「空はひとつ」

東日本大震災被災地への義援金を引き続き募っています。

◇義援金振込先

三菱UFJ銀行（銀行コード0005）

巣鴨支店（店番号770）

口座番号 普通 0017991

口座名義 公益社団法人日本ハング・

パラグライディング連盟

JHFレポート242号

発行日：2023年（令和5年）7月30日

発行：公益社団法人 日本ハング・パラグライディング連盟（JHF）

編集：JHF事務局

印刷：株式会社アイセレクト

すべての スポーツに エールを

スポーツくじの収益は、日本のスポーツを育てるために使われています。



くじを買うはエールになる



※19歳未満の方の購入又は譲り受けは法律で禁じられています。払戻金も受け取れません。運営・販売：独立行政法人日本スポーツ振興センター

上空利用可能デジタル無線機 使用のお勧め

2024年（令和6年）11月30日にアナログ式簡易無線機の運用が終了することに備えて、JHFではハンググライダーやパラグライダーのフライト中に使用する無線機として「簡易無線登録局」対応のデジタル無線機の使用を推奨しています。

上空利用5チャンネルを搭載、デジタル方式の音声なので、混信もすくなくクリアで聞き取りやすくなっています。現在の対応機種はSTANDARD製のVX-291S、VXD450S、VXD1S、ICOM製のIC-DPR30、IC-DPR4、KENWOOD製のTPZ-D510です。

JHF賛助会員（JHFウェブサイトにはバナーを掲載）からも購入することができます。

なお、JHFではSTANDARD製デジタル無線機を15台保有し、フライヤー会員に貸し出しをしています。ご希望の方はJHFウェブサイトの「JHFのご案内」をご覧のうえお申し込みください。

すでにデジタル無線機をお持ちの方は、無線機の登録手続きを済ませ利用料を納めているか、ご確認ください。登録をしないまま無線機を運用すると、不法無線局として処罰の対象になります（1年以下の懲役または100万円以下の罰金）。お忘れのないようお願いします。